

令和6年度 第1回地域学校協働本部運営委員会 議事録

開催日時：令和6年4月19日(金) 10時～11時15分

開催場所：我孫子市教育委員会 大会議室

出席者：寺内委員、小谷委員、山下委員、戸塚委員、石川委員、小池委員、齊藤委員、
十川委員、藤田委員、森谷委員、事務局4名

傍聴者：なし

1 指導課長挨拶

本日はご多用の中、ご出席いただきありがとうございます。

今年度より市民活動推進課課長と学校運営協議会委員の代表者の2名の運営委員が増えました。今後求められる学校と、まちづくり協議会、自治会、市民活動団体など地域と一体となった活動をどのように発展させていくか、この会議で話し合いができればと思います。

2 令和6年度基本方針について

平成13年度より地域に開かれた学校づくりを目指そうということで始まった学校評議員制度に続いて、平成22年度には湖北台中区で学校支援地域本部事業がスタートしコーディネーターが配置されました。そして布佐中区で先行的に小中一貫教育が始まり、平成28年度には地域との協働により研究発表を成功させることができました。さらに令和3年度布佐中より導入されたコミュニティ・スクールは令和4年度学校運営協議会が各校で設置され市内全校で実施となりました。この学校運営協議会では熟議を重ねるとともに、「学校一緒にやろうよ」をモットーにして、社会、地域総ぐるみで子供たちを支えていこうということがコンセプトとなっています。

学校の教育活動支援では昨年度は令和4年度の実績を上回っています。また令和4年度停滞していた学校が令和5年度はとても増えています。学生ボランティアについては提携している大学のほかに東京理科大学、東京学芸大学、国士舘大学、千葉大学の学生も参加しました。また中学生が小学生に学習支援することもありました。中央学院大学ではボランティアサークルがあり今年度はそのサークルとも連携をとることが可能となりました。

学校運営協議会ができたことで地域とのネットワークが広がった例を紹介いたします。湖北台西小学校では新たな取り組みとして湖北台まちづくり協議会と一緒に卒業記念事業を開催しました。きっかけは校長先生の「近年子供たちの活動を発表する場がない。」といった一言でした。まちづくり協議会と学校が協議を重ね、地域としてなにかできることはないかと話し合った結果「卒業記念事業」の開催に至りました。地域からは子供たちの喜んでくれている姿を見ることができてよかったといった意見が聞かれました。学校と地域との熱量が同じであったことがいいと感じました。今回は地域と学校が同じベクトルで

進むことができたことがうまくいった秘訣だったと思います。今年度は管理職が変わったのでまず一番に校長と地域との顔合わせをしています。

次のケースは地区社協と地域との連携です。地区社協の事業に高齢者体験や認知症サポーター養成講座への取り組みがあります。スタッフを補う形でボランティアの方々に来ていただき、お手伝いをしてもらいました。

キャリア教育では推進委員の横のつながりで質の高い講師を呼ぶことが出来ました。また就職体験では地域の方に生徒と面談をしてもらいました。

ミニ集会、防災キャンプでは企画から学校と地域が協働して一緒に一から作り上げるとともに質の高いグループワークを行うことができました。

今年度の取り組みとしては

1. 課題を整理し停滞している学校へ支援をする。子どもを真ん中に置いた支援のネットワークづくり。
2. 地域学校協働活動を位置付けた中学校区独自の小中一貫教育カリキュラム開発。
3. 熟議の場としての学校運営協議会。
4. 大人も子どもとともに学べる学校を目指す。

この4点を考えています。

学校と地域が目標を共有するのは簡単なことではありません。まずは学校運営協議会委員に日常的な活動の様子や理解を得ることが必要です。そのためにも日常の生活や授業にも学校運営協議会委員に積極的に参加していただければと思います。

最後に学校は誰のものと質問されたらどう答えますか。学校関係者はおそらく子ども達のものといった意見が大部分であると思います。ただこれからの学校はコモンズ（コミュニティーに属する者の共有の場）であるという意識も持つことが大切になってくると考えています。

次に協議に移りたいと思います。何かご意見ありますか？

・令和3年頃コミュニティ・スクールについて説明を受けたときは、この事業で重きを置いているのは、学校、特に教職員の働き方改革といった印象が強かったのですが今日の話聞いて地域コミュニティの活性化に繋がる事業であることを感じました。コミュニティ・スクールが広がるにつれまちづくり協議会や自治会が活性化すると思います。（委員）

・学校も地域もwinwinの関係になれるといいですね。（司会）

・コモンズ（共有の場）としての学校を広げていくこと、これについては生涯学習の分野なのでそちらで具体的に進めていってほしいです。布佐中では布佐カリキュラムを10年

ほど前にスタートし、中学3年生の生徒が4、5人グループを作り語り部さんから話を聞くといった授業をしています。語り部さんは20人くらいの登録があります。

コモンズといった発想の中で地域ルームを作り連携しながら布佐カリキュラムとして実現していく、このような流れの中、いま直面しているのが地域住民の高齢化です。語り部さんも年々少なくなっていき、昔のことを語り継ぐ人がいなくなってしまう。それを引き継ぐために2、3年前から布佐歴史サロンという勉強会を立ち上げました。30~40人地域の歴史が好きな方が集まり勉強会を開いています。そのデータをDVD化しアーカイブに残し古文書などとともに学校図書館に保存してもらおうことをしています。(委員)

・布佐中区は地域独自の事業を起こし成功している例です。各地域実情にあった活動をしていていただきたいと思います。(司会)

・コモンズの話聞いて自分の学区でも取り組んでみたいと思い、学校運営協議会で提案してみました。そうしたところ学校休業日に地域の人たちが出入りするとセキュリティの問題で難しいと言われました。そのあたりはいかがでしょうか。(委員)

・地域ルームは8年前にできました。布佐中学校ではA棟とB棟があり、各々が独立しています。B棟の余裕教室を利用して地域ルームを作りました。直接B棟から入ることができるのでセキュリティの問題は解決できました。また利用にあたっては協議会で規約を作りました。(委員)

・ボランティアを登録制にしたり信頼のおける方を紹介してもらうことで解決できます。校内に信頼できるひとがたくさん出入りしている学校は逆に不審者は入ってきづらいということも言えると思います。(事務局)

・今後余裕教室の使い方について考える必要がありますね。(委員)

・布佐地区は恵まれていると思います。やってみたいとは思いますがスタートするまでに時間がかかりそうです。(委員)

・生涯学習、公民館講座を学習した方が卒業されて学校でボランティアできるといいと思います。(委員)

・認知症サポーター養成講座では、昨年度三小でPTAが参加して手伝ってくれました。こういった形でサポートしてもらえるといいと思います。(委員)

・学校では余裕教室があるようで、実はない状態です。地域交流教室は子供たちが気楽に行けないようなところにあります。地域交流教室が空いていれば様々な活動に利用できると思います。(委員)

・地域交流教室の隣にあびっ子クラブがあります。休日の利用もある為、セキュリティの関係で学校と分けています。(委員)

・いろいろな立場の意見が聞けてよかったです。これまで聞いた話で大切なことは学校だけ地域だけが盛り上がるのがないよううまくバランスをとっていくことです。

布佐中では推進委員と話す機会が多くあり、学校に負担をかけないように気を遣ってくれていたように感じました。布佐中区では推進委員同士がコミュニケーションをとってくれて頼りがいもありました。管理職が変わっても地域が繋がってくれるのがよかったです。地域によってできることが違います。また、いろいろな人の力を借りないとうまくいかないこともあります。(委員)

ここまで貴重なご意見ありがとうございました。以上で協議については終了させていただきます。事務局に司会を戻します。(司会)

事務局：本日、協議していただいた内容については、確実に進めて第2回の本委員会で評価、助言をいただきたいと思います。コミュニティ・スクールも3年目を迎え、学校運営協議会委員も2期目に入ったことから、さらなる一体化の推進、並びに小中一貫教育との一体的推進を図り本事業の充実に尽力していきますので今後ともよろしくお願いいたします。

県教育委員会からのお知らせとして推進員の研修講座があります。今年度もオンラインでの研修が多くあります。特に県で進めている推進員の研修講座については受講希望があれば事務局にご相談ください。市の研修会も全国で活躍されている著名な先生方を講師として招聘していますので、勉強してみたいという希望がありましたら事務局に相談いただければと思います。

次回の運営委員会は令和7年2月12日(水)10:00~の予定になっています。よろしくお願いいたします。